

令和6年度

〔2024〕

履修の手引

【在学学生】



滋賀県立大学

THE UNIVERSITY OF SHIGA PREFECTURE

本手引の内容は Web ポータルにも掲載されています

大学ホームページからも閲覧可能です。

(トップページの「大学・大学院」から、アクセスし、「教育情報」の「履修の手引」を押下してください。)

この冊子は 2023 (令和 5) 年度以前入学生用に、カリキュラムの変更点などをまとめたものです。自分の入学した年度の履修要件 (卒業要件を含む) と併せて確認してください。

目 次

1 科目履修の手引の変更点

- (1) We b履修登録・確認……………1
- (2) We b履修取消……………1
- (3) CAP制……………1
- (4) 気象警報の発表・公共交通機関の不通等と授業についての措置 ……2
- (5) 授業の欠席……………2
- (6) 試験期間中における風雪時の対応について ……3
- (7) 成績通知……………4
- (8) 成績評価の疑義申し立ておよび根拠等についての開示制度について ……4
- (9) 他学部・他学科科目の履修について……………4
- (10) 授業アンケートの実施について……………4

2 カリキュラム等の変更点

- (1) 全学共通科目の履修について……………5
- (2) 学部学科科目の履修について……………21
- (3) 近江楽士（地域学）副専攻関連科目の履修について……………27

滋賀県立大学 学位授与方針（ディプロマポリシー）

滋賀県立大学では、卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を以下のとおり定めます。これらの能力を獲得するとともに、各学部にて所定の年限在学し、全学ならびに各学部・学科の定める教育理念・教育目的に沿って設定された教育プログラムや授業科目を履修して、基準となる単位数を修得した学生に学位を授与し、卒業を認定します。

学位：学士

- A. 「全学共通基礎科目」、「人間学」、「地域基礎科目」等の「全学共通科目」の履修を通じて、基礎的な知識・技術を養うとともに、社会環境の変化に柔軟に対応できる豊かな人間性と、課題を発見、分析、解決する能力に加え、自ら探求する態度と姿勢を身につける。
- B. 各学部・学科の特性に応じて編成された体系的な教育を通じて、専門的な知識・技術を養うとともに、知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力などを総合する力を身につける。

滋賀県立大学 教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

滋賀県立大学は、「知と実践力をそなえた人が育つ大学」として、未知の時代を切り拓く広い視野と豊かな創造力、先進的な知識、技術を有する有為の人材を養成するため、環境科学部、工学部、人間文化学部、人間看護学部を置き、以下の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

A. 全学共通科目

広い視野と実践力を養い、大学の目的である高度化・総合化および柔軟性・多様性を実現するため、「全学共通科目」として、外国語（英語、第二外国語）、健康・体力科学、情報処理の3科目群からなる「全学共通基礎科目」、「人間学」、「地域基礎科目」等を設置します。

「人間学」では、主体的に学び、考える学生を育てることを意図して、「人間」という存在について具体的、現実的な問題を通して考え、人間と社会を深く見つめながら、広い視野、深い教養、そして、人権感覚を磨くとともに、新しい問題を見出す能力、新しい視点から発想する能力を身につけることを目指します。

B. 専門教育科目

専門的な知識や技能を高めるとともに、主体性、創造力および課題発見・解決能力等の育成を目指し、各学部・学科に専門教育科目を設置します。

各学部・学科の専門科目の編成に関しては、専門基礎科目（学部共通科目）、複数学科共通科目、学科専門科目といった構成およびその配当年次によって、基礎的科目から発展（応用的科目）への学習の流れに沿って展開します。

C. 副専攻

主専攻の学びを更に社会で活用できる能力を養うため、学部学科を横断した教育プログラムとして、近江楽士（地域学）副専攻を設置します。

副専攻では、「地域に根ざし、地域に学び、地域を学ぶ大学」として、地域・地元志向の授業科目を設置し、コミュニケーション力・構想力・実践力の3つの要素からなる変革力を養成します。

1 科目履修の手引の変更点

授業を履修するためには、履修登録をする必要があります。これを怠ったり、誤ったりすると単位が認定されないこととなります。また、CAP制とGPA制度とも密接に関係していますので、各学科で配布される「履修登録の手引き」をよく確認するとともに、次の点に注意して慎重に行ってください。

(1) Web履修登録・確認

履修登録期間開始に先だって時間割をUSPOで通知します。学科配布される「履修登録の手引き」を確認し、年度初めに設定される履修登録期間中にUSPOで1年間分の履修登録をおこなってください。登録内容に間違いがないか必ず確認してください。

※ 令和4年度から各学期の履修登録追加・変更期間を設定していません。履修登録期間内に前期・後期の履修登録を行ってください。

※ 履修登録の日程や手続きは「履修登録の手引き」を確認してください。

(2) Web履修取消

履修登録した科目の履修を取り消す期間を設けています。実際に授業に出席したものの、履修登録が多すぎて十分な学修時間がとれないなどの理由により、履修登録を取り消すことも可能です。科目の取消しを希望する場合は履修取消期間に手続きをしてください。ただし、取り消すことができる科目数は各学期で2科目までとします。また、必修科目および後期での通年科目の登録を取り消すことはできません。

※ 集中講義については、次に該当した場合に限り履修取消を認めますので、当該講義開始前に教務課で手続きをしてください。

- ・履修登録期間後に日程が確定したことまたは日程変更したことにより出席できなくなった場合
- ・欠席を報告する理由に該当し、総授業時間の1/3以上欠席することとなった場合

(3) CAP制

1年間に履修登録できる科目の単位数の上限を定めるCAP制を導入しています。本学ではこの上限を49単位とします。ただし、この制度の対象となるのは、2018（平成30）年度以降に入学した学部生のみとなります。3年次編入生および2017（平成29）年度以前に入学した学生は制度の適用を受けませんので、従来どおり履修登録をしてください。

CAP制の適用を受けない学生についても、授業内容を深く真に身につけるため、学修すべき授業科目を精選し、しっかりとした学修計画を立てるようにしてください。

また、成績優秀者は履修単位数の上限を引き上げることができます。成績優秀者の認定は、直前の学期のGPAにより行い、CAP制の上限を超えて年間の履修登録を希望する場合^{*1}に、USPOを通じて申請を行うことができます（1年次は後期から）。GPAの基準値や対象となる学科、履修登録の上限から引き上げる単位数等は下記のとおりです。

引き上げ基準	引き上げ単位数等
CAP対象科目を年間48単位以上 ^{*2} 履修登録し、直前の学期のGPAが3.00以上 かつ 引き上げ対象学期の年間履修登録単位数がCAP制の上限を超える場合 ^{*1}	<p>学期ごとに2単位引き上げ（年間で最大4単位引き上げ） ※年度が変わると通常の上限に戻ります。</p> <p><イメージ></p> <p>1年次前期終了時のGPAが3.00以上 → 1年次の上限 … 49単位 + 2単位 = 51単位</p> <p>1年次後期終了時のGPAが3.00以上 ※年度が変わるので49単位に戻る → 2年次の上限 … 49単位 + 2単位 = 51単位</p> <p>さらに2年次前期終了時のGPAも3.00以上 → 2年次の上限 … 51単位 + 2単位 = 53単位</p> <p>2年次後期終了時のGPAが3.00以上 ※年度が変わるので49単位に戻る → 3年次の上限 … 49単位 + 2単位 = 51単位</p>

※引き上げ制度は次の学科のみ適用されます。（記載のない学科では引き上げ不可）

（ 環境生態学科、環境政策・計画学科、環境建築デザイン学科、生物資源管理学科、材料化学科、
機械システム工学科、地域文化学科、生活デザイン学科、人間関係学科、国際コミュニケーション学科 ）

- * 1 進路変更で後期履修登録変更する場合を含む
- * 2 引き上げ対象学期が前期の場合は、前年度の CAP 対象科目の履修登録単位数（後期履修取消後）
引き上げ対象学期が後期の場合は、当該年度の CAP 対象科目の履修登録単位数（前期履修取消後）

（4） 気象警報の発表・公共交通機関の不通等と授業についての措置

暴風警報等が発表された場合または公共交通機関が全面運行停止（※）となった場合、授業については以下の措置をとります。

気象・交通状況	授業についての措置
彦根市域または彦根市域を含む地域に暴風警報、暴風雪警報または特別警報が発表されたとき	①警報発表中は休講（授業中に警報発表の場合、その次の授業から休講） ②午前 6 時 30 分現在、警報発表中の場合、午前中は休講 ③午前 10 時までに警報解除の場合、午後から授業を行う ④午前 10 時現在、警報発表中の場合、午後も休講
公共交通機関が全面運行停止となったとき（ストライキ、災害、台風等）	①午前 6 時 30 分現在、運行停止の場合、午前中は休講 ②午前 10 時までに運転再開の場合、午後から授業を行う ③午前 10 時現在、運行停止の場合、午後も休講
その他	不測の事態の発生を起因として、学長が授業を行うことが困難と認める場合、必要な範囲で休講等の措置を行うことがあります。

※ 「公共交通機関が全面運行停止」とは、原則として、JR 西日本琵琶湖線（京都―米原間）の全線または一部線区が全便不通（一時的な運転見合わせは除く）の場合をさします。

○休講情報については随時更新されますので、掲示板およびUSP で確認してください。

○学外実習に関しては、当該学部で別途定めます。

（5） 授業の欠席

病気その他やむを得ない理由により、引き続き 7 日以上 2 か月以内（7 日未満の特例あり）、授業を欠席する場合は、必要な証明書を添えて、所定の欠席理由書を次により提出することができます（交通機関の運休は、直接、担当教員へ提出）。

・事前に教務課窓口へ提出すること

・事前に提出できない場合は、欠席事由が解消した後 1 週間以内に教務課窓口へ提出すること

※ 夏季集中休暇、年末年始などにより欠席事由解消後 1 週間以内に提出できない場合は、事前に電話等により教務課に連絡すること

・欠席理由書は同じものを 2 部提出すること

教務課では、提出された欠席理由書の内容を確認後、1 部を返却します。各自必要科目分をコピーし、直接、当該科目の授業担当教員のもとに持参し、理由を説明してください。ただし、授業担当教員が非常勤講師の場合は、教務課の指示に従ってください。

欠席理由書は、欠席の時期と理由を担当教員に報告するものです。なお、欠席の取り扱いおよび成績評価は担当教員の判断となります。

※ 病気等やむを得ない理由により定期試験を受けることができず追試験の受験を希望する場合は、「5 試験 (5) 追試験」の手続きが必要です。

欠席を報告する理由	必要な証明書
病気・けが	医師の診断書 (次の①に該当する感染症の場合は指定様式)
災害	被災証明書
交通機関の運休	運休・延着証明書
3親等以内の葬儀	葬儀日がわかる証明書(会葬礼状、葬儀証明書等)
正課実習	実習証明書(指定様式)
その他大学が認める理由	理由書(本人以外の証明)

7日未満の特例：以下の欠席理由については、7日未満であっても、欠席理由書を受理します。

- ①「病気・けが」のうちインフルエンザ等の感染症(学校保健安全法施行規則第18条に記載された感染症)にかかり欠席する場合、同法19条に記載された出席停止期間の欠席を報告してください。

主な感染症	出席停止期間
インフルエンザ	発症した後(発症の翌日を1日目として)5日を経過し、かつ解熱した後2日
百日咳	特有の咳が消失するまでまたは5日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで
麻疹(はしか)	解熱後3日
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発生した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
風しん	発しんが消失するまで
水痘	すべての発しんが痂皮化するまで
咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状が消退後2日
新型コロナウイルス感染症	発症した後(発症の翌日を1日目として)5日を経過し、かつ症状が軽快した後1日

- ②「交通機関の運休」で欠席する場合
必要な証明書を添えて、欠席理由書を直接、担当教員へ提出してください。

- ③「3親等以内の葬儀」で欠席する場合(忌引き)
葬儀の日を含む下表の日数(土曜・日曜・祝日を含む連続した日数)を限度とする

死亡した者	欠席できる日数	
配偶者	10日	
	血族	姻族
父母	7日	3日
子	5日	1日
祖父母・兄弟姉妹	3日	1日
おじ・おば・曾祖父母等	1日	1日

- ④「その他大学が認める理由」で欠席する場合
- ・課外活動において全国大会またはそれと同等以上の大会に出場する場合
 - ・就職活動(最終選考相当)
 - ・裁判員制度により裁判員として裁判所に出頭する場合

※集中講義については、欠席を報告する理由に該当し、総授業時間の1/3以上欠席することとなった場合は、欠席理由書の提出ではなく、履修取消の手続きを行うこととなります。

(6) 試験期間中における風雪時の対応について

原則として、試験日程は風雪等の天候とは関係なく、予定どおり実施します。ただし、各試験科目の担当教員が試験延期等の判断を行う場合があるので、USPOに注意しておいてください。

また、試験当日に公共交通機関に遅れが生じた場合は、適宜、実施について判断します。

(7) 成績通知 (2022 (令和4) 年度から一部変更)

成績の通知については、前期科目分は後期開始前に、後期・通年科目分は翌年度の学期開始前に、教務課から本人に対しUSPOを通じて行います。

また、USPOで成績停止の申請をした者には、保護者等へ成績を開示しないこととします。

(8) 成績評価の疑義申し立ておよび根拠等についての開示制度について

本学では、学生は自らの成績評価に疑義のある場合、その成績の根拠等について当該科目の担当教員に対して開示を求めることができます。

① 疑義申し立てができる場合

- ・出席、課題提出、試験等に照らして、成績評価について疑義があると思われる場合
- ・シラバス等に記載されている到達目標、成績の評価方法と基準等から、成績評価について疑義があると思われる場合
- ・その他、具体的かつ明確な理由をもって成績評価に疑義があると思われる場合

② 手続き等について

まずは当該科目の担当教員に対し、直接確認を求めてください。オフィスアワー等を活用して担当教員を訪ねましょう。

担当教員から教示がない場合、あった場合でも説明が足りない、明確な根拠が示されていない等の事由により疑義が解消されない場合、または非常勤講師等により直接の確認が困難な場合に限り、「成績評価の疑義申し立ておよび根拠等にかかる開示の願出書」により、学生支援センター長(学生支援センター教務担当)を通じて成績評価の根拠等について文書により開示するようお願いすることができます。

③ 制度による願出ができる期間

担当教員への確認および願出書の提出ができる期間は、成績が通知された日から原則として3週間以内です。成績保留等により成績通知書に記載されなかった科目については、当該科目の成績の確定について掲示された日から原則として3週間以内です。期限を過ぎたものは受付できません。

願出書の様式や、その他詳細については、教務課担当までご相談ください。

(9) 他学部・他学科科目の履修について

本学では、所属する学科のカリキュラムに授業科目として指定されていない他学部、他学科の科目も、履修することを認めています。

ただし、教室の収容人数制限や実験機器・設備の数、資格課程上の制約等の理由からすべての開講科目が他学部・他学科科目として履修できるわけではありません。また、履修した科目の単位を所属学科の卒業単位に算定するには限度があるなどの一定の制約がありますので注意してください。

- ① 他学部または他学科の科目の履修を希望する場合、事前に文書で承諾を得る必要はありません。(工学部を除く)
- ② 履修登録後に、受講人数の制限から、やむを得ず受講を取り消すことがあります。
- ③ 他学部または他学科で修得した単位を卒業要件として認める単位数については、各学部、学科で定めています。各学部、学科の卒業要件を確認してください。

(10) 授業アンケートの実施について

授業内容やカリキュラムの改善などに取り組むため、授業に対する学生のみなさんの意見を聞くために授業アンケートを実施しています。いただいた意見は今後役に立てていきたいので、みなさんの真摯な協力をお願いします。

実施にあたっては、該当授業中に担当教員から指示があります。

なお、担当教員には集計結果のみが示されるため、個人を特定する情報が提供されることはありません。

2 カリキュラム等の変更点

(1) 全学共通科目の履修について

① 再履修について

前年度に不可または不合格となった科目を、今年度改めて履修することができます。修得済みの科目については、再履修することができません。再履修にあたって他の必修科目との重複により履修できない場合がありますが、どうしても再履修が必要な場合は、各自の所属する学科長に相談してください。

なお、全学共通科目の再履修についてはおおむね以下のとおりですが、詳細については科目担当教員または教務課まで相談してください。

■第一外国語

英語 I A・B～IV A・Bのいずれかが前年度に不可となった場合は、金曜日5時限目に開講される英語 I A・B～IV A・B（再履修）のうち、不可に対応するものを履修してください。なお、時間割の都合上（金曜日に別の必修科目がある、複数の英語が不可となっている場合に限る。）、不可に対応する英語（再履修）を履修することができない場合は、所属学部の英語 I A・B～IV A・Bの中から不可となった科目を履修してください。登録はUSP oでできますが、先着順です。そのため、定員超過した場合は別のクラスを登録してください。

■第二外国語（実用英語演習を含む）

これまで履修してきた言語を再履修してください。原則として言語の変更はできません。登録はUSP oでできますが、先着順です。そのため、定員超過した場合は別のクラスを登録してください。

原則として、第二外国語 IA・IBの単位を修得できていない場合にはII A・II Bの履修はできません。IA・IBの単位を修得できていない学生が、第二外国語 IA・IBとII A・II Bを同時履修することは、特例的に認められる場合があります。この場合には、担当教員の下承を得る必要があります。

■情報処理科目

「情報リテラシー」、「情報科学概論」のいずれかがこれまでに不可となっている場合は、当該科目を再履修してください。再履修にあたっては、情報教育担当教員に相談し、その指示に従ってください。登録はUSP oでできますが、先着順です。そのため、定員超過した場合は別のクラスを登録してください。

■保健体育科目

健康・体力科学 I、IIのいずれかが不可となっている場合は、USP oで登録をしたうえで、初回授業（体育館アリーナ）に出席し、健康・体力科学担当教員から、クラス分け等の指示を受けてください。

② 読替えについて

入学年度により、下記に示した新科目名は、旧科目名に読み替えます。ただし、旧科目名で単位を修得した科目については、新科目名で新たに単位を修得することはできません。

■外国語科目

対象	旧科目名	新科目名	備考
2020(令和2)年度 以前入学生	モンゴル語ⅠA		廃止
	モンゴル語ⅠB		廃止
	モンゴル語ⅡA		廃止
	モンゴル語ⅡB		廃止
2021(令和3)年度 以前入学生	初習英語ⅠA		廃止
	初習英語ⅠB		廃止
	初習英語ⅡA		廃止
	初習英語ⅡB		廃止
2023(令和3)年度 以前入学生	—	Lecture and Discussion in English	選択科目として追加
	—	Academic Lectures in English	選択科目として追加

■人間学科目・地域基礎科目

人間学科目は、毎年度の科目構成の見直しにより、入学時の履修の手引き記載の開講科目から変更点が多くあります。次ページ以降に、入学年度ごとにその変更点をまとめたカリキュラム表を掲載しますので、入学時の履修の手引きと併せて確認の上、履修計画を立てるようにしてください。

特に、専門科目として分類される科目や読替えのある科目には十分注意してください。

○人間学科目の卒業要件

2017(平成29)年度～2020(令和2)年度入学生

<人間学> 必修科目 1科目2単位 選択科目 3科目6単位
<地域基礎> 必修科目 1科目2単位 選択科目 1科目2単位

■キャリア教育科目

対象	旧科目名	新科目名	備考
2022(令和4)年度 以前入学生	インターンシップG	キャリアステップA	
	インターンシップH	キャリアステップB	
	インターンシップI	キャリアステップC	

2023(令和5)年度入学生用人間学・地域基礎科目一覧

■人間学

クラスター	科目	定員	単位	備考
必修	人間探求学		2	
生きる Live	自然のしくみ B		2	
	農業と環境 A		2	
	食と健康	90	2	栄養は自由科目
	人間と病気		2	
	生命・人間・倫理		2	看護は必修
	精神保健論	100	2	
	キャリア形成への道 B		2	キャリア教育関連
	キャリア形成への道 C	50	2	キャリア教育関連 廃止
	経済学		2	
	憲法	180	2	
	Japan Studies VI	50	2	
	アジアフィールド実習 I		2	
	アジアフィールド実習 II		2	
考える Think	自然のしくみ A		2	
	名著から学ぶ環境問題		2	
	都市・建築を考える		2	
	生活の中にみる力学	50	2	工学部は自由科目
	コンピュータとインターネット		2	工学部は自由科目
	地域と文化		2	
	歴史と文化		2	
	人間関係の科学A		2	
	人間関係の科学B		2	
	国際文化概論		2	国際コミュニケーション学科は「比較宗教論」(学科専門科目)に読替え 「比較宗教論」既修得者は履修不可
	差別と人権(同和問題)		2	
	キャリア形成への道 A	50	2	キャリア教育関連
	Japan Studies VII	50	2	
	World Societies I	50	2	
	World Societies II	50	2	
	異文化理解 A		2	
異文化理解 B		2	廃止	
つくる Make	都市・建築をつくる		2	
	農業と環境 B		2	-
	暮らしの中の材料		2	
	自然科学入門		2	
	機械の再発見		2	工学部は自由科目
	機械の役割と仕組み		2	工学部は自由科目
	技術の歴史		2	工学部は自由科目
	電子社会と人間		2	
	電子システムの最先端		2	工学部は自由科目
	比較住居論	100	2	生活デザ、人間関係は専門科目扱い
	生活と健康		2	
	ジェンダー平等をつくる	200	2	

■地域基礎科目

クラスター	科目	定員	単位	備考
必修	地域共生論		2	
選択必修	地域コミュニケーション論	60	2	
	地域診断法	40	2	
	ソーシャル・ビジネス概論	40	2	
	地域社会福祉論	120	2	看護は必修
	地域づくり人材論		2	
	びわこ環境行政論		2	
	多文化共生論		2	奇数年度開講
	地域産業・企業から学ぶ社長講義	150	2	
	SDGsと滋賀のグローバル・イノベーション	100	2	
	近江の美	100	2	偶数年度開講
	彦根商工会議所寄附講義「世界遺産のまちづくり・人づくり」	40	2	名称変更「世界遺産のまちづくり・人づくり」 令和7年度から廃止

2022(令和4)年度入学生用人間学・地域基礎科目一覧

■人間学

クラスター	科目	定員	単位	備考
必修	人間探求学		2	
生きる Live	自然のしくみ B		2	
	農業と環境 A		2	
	食と健康	90	2	栄養は自由科目
	人間と病気		2	
	生命・人間・倫理		2	看護は必修
	精神保健論	100	2	
	キャリア形成への道 B		2	キャリア教育関連
	キャリア形成への道 C	50	2	キャリア教育関連 廃止
	経済学		2	
	憲法	180	2	
	Japan Studies VI	50	2	
	アジアフィールド実習 I		2	
	アジアフィールド実習 II		2	
考える Think	自然のしくみ A		2	
	名著から学ぶ環境問題		2	
	都市・建築を考える		2	
	生活の中にみる力学	50	2	工学部は自由科目
	コンピュータとインターネット		2	工学部は自由科目
	地域と文化		2	
	歴史と文化		2	
	人間関係の科学A		2	
	人間関係の科学B		2	
	国際文化概論		2	国際コミュニケーション学科は「比較宗教論」(学科専門科目)に読替え 「比較宗教論」既修得者は履修不可
	差別と人権(同和問題)		2	
	キャリア形成への道 A	50	2	キャリア教育関連
	Japan Studies VII	50	2	
	World Societies I	50	2	
	World Societies II	50	2	
異文化理解 A		2		
異文化理解 B		2	廃止	
つくる Make	都市・建築をつくる		2	
	農業と環境 B		2	-
	暮らしの中の材料		2	
	自然科学入門		2	
	機械の再発見		2	工学部は自由科目
	機械の役割と仕組み		2	工学部は自由科目
	技術の歴史		2	工学部は自由科目
	電子社会と人間		2	
	電子システムの最先端		2	工学部は自由科目
	比較住居論	100	2	生活デザ、人間関係は専門科目扱い
	生活と健康		2	
	ジェンダー平等をつくる	200	2	

■地域基礎科目

クラスター	科目	定員	単位	備考
必修	地域共生論		2	
選択必修	地域コミュニケーション論	60	2	
	地域診断法	40	2	
	ソーシャル・ビジネス概論	40	2	
	地域社会福祉論	120	2	看護は必修
	地域づくり人材論		2	
	びわこ環境行政論		2	
	多文化共生論		2	奇数年度開講
	地域産業・企業から学ぶ社長講義	150	2	
	SDGsと滋賀のグローバル・イノベーション	100	2	
	近江の美	100	2	偶数年度開講
	彦根商工会議所寄附講義「世界遺産のまちづくり・人づくり」	40	2	名称変更「世界遺産のまちづくり・人づくり」 令和7年度から廃止

2021(令和3)年度入学生用人間学・地域基礎科目一覧

■人間学

クラスター	科目	定員	単位	備考
必修	人間探求学		2	
生きる Live	自然のしくみ B		2	
	農業と環境 A		2	
	食と健康	90	2	栄養は自由科目
	人間と病気		2	
	生命・人間・倫理		2	看護は必修
	精神保健論	100	2	
	キャリア形成への道 B		2	キャリア教育関連
	キャリア形成への道 C	50	2	キャリア教育関連 廃止
	経済学		2	
	憲法	180	2	
	Japan Studies VI	50	2	
	アジアフィールド実習 I		2	
	アジアフィールド実習 II		2	
考える Think	自然のしくみ A		2	
	名著から学ぶ環境問題		2	
	都市・建築を考える		2	
	生活の中にみる力学	50	2	工学部は自由科目
	コンピュータとインターネット		2	工学部は自由科目
	地域と文化		2	
	歴史と文化		2	
	人間関係の科学A		2	
	人間関係の科学B		2	
	国際文化概論		2	国際コミュニケーション学科は「比較宗教論」(学科専門科目)に読替え 「比較宗教論」既修得者は履修不可
	差別と人権(同和問題)		2	
	キャリア形成への道 A	50	2	キャリア教育関連
	Japan Studies VII	50	2	
	World Societies I	50	2	
	World Societies II	50	2	
異文化理解 A		2		
異文化理解 B		2	廃止	
つくる Make	都市・建築をつくる		2	
	農業と環境 B		2	
	暮らしの中の材料		2	
	自然科学入門		2	
	機械の再発見		2	工学部は自由科目
	機械の役割と仕組み		2	工学部は自由科目
	技術の歴史		2	工学部は自由科目
	電子社会と人間		2	
	電子システムの最先端		2	工学部は自由科目
	比較住居論	100	2	生活デザ、人間関係は専門科目扱い
	生活と健康		2	
	ジェンダー平等をつくる	200	2	

■地域基礎科目

クラスター	科目	定員	単位	備考
必修	地域共生論		2	
選択必修	地域コミュニケーション論	60	2	
	地域診断法	40	2	
	ソーシャル・ビジネス概論	40	2	
	地域社会福祉論	120	2	看護は必修
	地域づくり人材論		2	
	びわこ環境行政論		2	
	多文化共生論		2	奇数年度開講
	地域産業・企業から学ぶ社長講義	150	2	
	SDGsと滋賀のグローバル・イノベーション	100	2	
	近江の美	100	2	偶数年度開講
	彦根商工会議所寄附講義「世界遺産のまちづくり・人づくり」	40	2	名称変更「世界遺産のまちづくり・人づくり」 令和7年度から廃止

2020(令和2)年度入学生用人間学・地域基礎科目一覧

■人間学

クラスター	科目	定員	単位	備考
必修	人間探求学		2	
生きる Live	自然のしくみ B		2	
	農業と環境 A		2	
	食と健康	90	2	栄養は自由科目
	人間と病気		2	
	生命・人間・倫理		2	看護は必修
	精神保健論	100	2	
	キャリア形成への道 B		2	キャリア教育関連
	キャリア形成への道 C	50	2	キャリア教育関連 廃止
	経済学		2	
	憲法	180	2	
	Japan Studies VI	50	2	
	アジアフィールド実習 I		2	
	アジアフィールド実習 II		2	
考える Think	自然のしくみ A		2	
	名著から学ぶ環境問題		2	
	都市・建築を考える		2	
	生活の中にみる力学	50	2	工学部は自由科目
	コンピュータとインターネット		2	工学部は自由科目
	地域と文化		2	
	歴史と文化		2	
	人間関係の科学A		2	
	人間関係の科学B		2	
	国際文化概論		2	国際コミュニケーション学科は「比較宗教論」(学科専門科目)に読替え 「比較宗教論」既修得者は履修不可
	差別と人権(同和問題)		2	
	キャリア形成への道 A	50	2	キャリア教育関連
	Japan Studies VII	50	2	
	World Societies I	50	2	
	World Societies II	50	2	
異文化理解 A		2		
異文化理解 B		2	廃止	
つくる Make	都市・建築をつくる		2	
	農業と環境 B		2	
	暮らしの中の材料		2	
	自然科学入門		2	
	機械の再発見		2	工学部は自由科目
	機械の役割と仕組み		2	工学部は自由科目
	技術の歴史		2	工学部は自由科目
	電子社会と人間		2	
	電子システムの最先端		2	工学部は自由科目
	比較住居論	100	2	生活デザ、人間関係は専門科目扱い
	生活と健康		2	
	ジェンダー平等をつくる	200	2	追加

■地域基礎科目

クラスター	科目	定員	単位	備考
必修	地域共生論		2	
選択必修	地域コミュニケーション論	60	2	
	地域診断法	40	2	
	[MBA入門]	40	2	名称変更「ソーシャル・ビジネス概論」
	地域社会福祉論	120	2	看護は必修
	地域づくり人材論		2	
	びわこ環境行政論		2	
	多文化共生論		2	奇数年度開講
	地域産業・企業から学ぶ社長講義	150	2	
	SDGsと滋賀のグローバル・イノベーション	100	2	
	近江の美	100	2	偶数年度開講
	彦根商工会議所寄附講義「世界遺産のまちづくり・人づくり」	40	2	名称変更「世界遺産のまちづくり・人づくり」 令和7年度から廃止

2019(令和元)年度入学生用人間学・地域基礎科目一覧

■人間学

クラスター	科目	定員	単位	備考
必修	人間探求学		2	
こころ (Ethics)	差別と人権(同和問題)		2	
	生命・人間・倫理		2	看護は必修
	[考えるための道具]<キャリア教育推奨>	50	2	名称変更「キャリア形成への道A」で読替え
しくみ (Social Studies)	[現代経済論]		2	名称変更「経済学」で読替え
	異文化理解A		2	
	異文化理解B		2	廃止
	[国際協力論]		2	廃止
	アジア・フィールド実習Ⅰ		2	
	アジア・フィールド実習Ⅱ		2	
	憲法	180	2	
	[Introduction to Japanese Culture and Society]	50	2	名称変更「Japan Studies VII」で読替え
	[Introduction to Japanese Law]	50	2	名称変更「Japan Studies VI」で読替え
	[Model United States of America]	50	2	名称変更「World Societies I」で読替え
	[Model United Nations]	50	2	名称変更「World Societies II」で読替え
	[キャリアデザイン]<キャリア教育推奨>		2	名称変更「キャリア形成への道B」で読替え
	[キャリアデザイン特講]<キャリア教育推奨>	50	2	廃止
しぜん (Natural Sciences)	[自然保護論]		2	名称変更「自然のしくみA」で読替え
	[材料史]		2	名称変更「暮らしの中の材料」で読替え
	[自然科学の視点]		2	名称変更「自然科学入門」で読替え
	[自然現象のしくみ]		2	名称変更「自然のしくみB」で読替え
	[農業と環境]		2	名称変更「農業と環境A」で読替え
わざ (Technology)	[こころのテクノロジー]		2	名称変更「人間関係の科学B」で読替え
	人間と病気		2	
	持続的農業論		2	廃止
	[比較都市論]		2	名称変更「都市・建築をつくる」で読替え
	機械の再発見		2	
	電子社会と人間		2	
	比較住居論	100	2	生活デザ、人間関係は専門科目扱い
	生活と健康		2	
	[植物の病気]		2	名称変更「農業と環境B」で読替え
	[川の未来学]		2	名称変更「都市・建築を考える」で読替え
追加科目	食と健康	90	2	追加 栄養は自由科目
	名著から学ぶ環境問題		2	追加
	生活の中にもみる力学	50	2	追加 工学部は自由科目
	コンピュータとインターネット		2	追加 工学部は自由科目
	地域と文化		2	追加
	人間関係の科学A		2	追加
	機械の役割と仕組み		2	追加 工学部は自由科目
	技術の歴史		2	追加 工学部は自由科目
	電子システムの最先端		2	追加 工学部は自由科目
	国際文化学概論		2	国際コミュニケーション学科は「比較宗教論」(学科専門科目)に読替え 「比較宗教論」既修得者は履修不可
	ジェンダー平等をつくる	200	2	追加

■地域基礎科目

クラスター	科目	定員	単位	備考
必修	地域共生論		2	
選択必修	地域コミュニケーション論	60	2	
	地域診断法	40	2	
	[MBA入門]	40	2	名称変更「ソーシャル・ビジネス概論」
	[近江の歴史と文化]		2	名称変更「歴史と文化」で読替え
	地域社会福祉論	120	2	看護は必修
	地域づくり人材論		2	
	びわこ環境行政論		2	
	多文化共生論		2	奇数年度開講
	地域産業・企業から学ぶ社長講義	150	2	
	近江の暮らしとなりわい	100	2	名称変更「SDGsと滋賀のグローバル・イノベーション」
	近江の美	100	2	偶数年度開講
	世界遺産のまちづくり・人づくり	40	2	令和7年度から廃止

2018(平成30)年度入学生用人間学・地域基礎科目一覧

■人間学

クラスター	科目	定員	単位	備考
必修	人間探求学		2	
こころ (Ethics)	差別と人権(同和問題)		2	
	生命・人間・倫理		2	看護は必修
	[考えるための道具]<キャリア教育推奨>	50	2	名称変更「キャリア形成への道A」で読替え
しくみ (Social Studies)	[現代経済論]		2	名称変更「経済学」で読替え
	異文化理解A		2	
	異文化理解B		2	廃止
	[国際協力論]		2	廃止
	アジア・フィールド実習Ⅰ		2	
	アジア・フィールド実習Ⅱ		2	
	憲法	180	2	
	History of Japanese Cinema		2	廃止
	Patterns in Japanese Culture & Society		2	廃止
	[Model United States of America]	50	2	名称変更「World Societies Ⅰ」で読替え
	[Model United Nations]	50	2	名称変更「World Societies Ⅱ」で読替え
	[キャリアデザイン]<キャリア教育推奨>		2	名称変更「キャリア形成への道B」で読替え
	[キャリアデザイン特講]<キャリア教育推奨>	50	2	廃止
しぜん (Natural Sciences)	[自然保護論]		2	名称変更「自然のしくみA」で読替え
	[材料史]		2	名称変更「暮らしの中の材料」で読替え
	[自然科学の視点]		2	名称変更「自然科学入門」で読替え
	[自然現象のしくみ]		2	名称変更「自然のしくみB」で読替え
	[農業と環境]		2	名称変更「農業と環境A」で読替え
わざ (Technology)	[こころのテクノロジー]		2	名称変更「人間関係の科学B」で読替え
	人間と病気		2	
	持続的農業論		2	廃止
	[比較都市論]		2	名称変更「都市・建築をつくる」で読替え
	機械の再発見		2	
	電子社会と人間		2	
	比較住居論	100	2	生活デザ、人間関係は専門科目扱い
	生活と健康		2	
	[植物の病気]		2	名称変更「農業と環境B」で読替え
	[川の未来学]		2	名称変更「都市・建築を考える」で読替え
追加科目	[Introduction to Japanese Culture and Society]	50	2	名称変更「Japan Studies VII」で読替え
	[Introduction to Japanese Law]	50	2	名称変更「Japan Studies VI」で読替え
	食と健康	90	2	追加 栄養は自由科目
	名著から学ぶ環境問題		2	追加
	生活の中にもみる力学	50	2	追加 工学部は自由科目
	コンピュータとインターネット		2	追加 工学部は自由科目
	地域と文化		2	追加
	人間関係の科学A		2	追加
	機械の役割と仕組み		2	追加 工学部は自由科目
	技術の歴史		2	追加 工学部は自由科目
	電子システムの最先端		2	追加 工学部は自由科目
	国際文化概論		2	国際コミュニケーション学科は「比較宗教論」(学科専門科目)に読替え 「比較宗教論」既修得者は履修不可
	ジェンダー平等をつくる	200	2	追加

■地域基礎科目

クラスター	科目	定員	単位	備考
必修	地域共生論		2	
選択必修	地域コミュニケーション論	60	2	
	地域診断法	40	2	
	経営学序論	40	2	「ソーシャル・ビジネス概論」に名称変更
	[近江の歴史と文化]		2	名称変更「歴史と文化」で読替え
	地域社会福祉論	120	2	看護は必修
	地域づくり人材論		2	
	びわこ環境行政論		2	
	多文化共生論		2	奇数年度開講
	地域産業・企業から学ぶ社長講義	150	2	
	近江の暮らしとなりわい	100	2	名称変更「SDGsと滋賀のグローバルイノベーション」
	近江の美	100	2	偶数年度開講
	世界遺産のまちづくり・人づくり	40	2	追加令和7年度から廃止

2017(平成 29)年度入学生用人間学・地域基礎科目一覧

■人間学

クラスター	科目	定員	単位	備考
必修	人間探求学		2	
こころ (Ethics)	差別と人権(同和問題)		2	
	生命・人間・倫理		2	看護は必修
	[思索の視点]<キャリア教育推奨>	50	2	名称変更「キャリア形成への道A」で読替え
しくみ (Social Studies)	[現代経済論]		2	名称変更「経済学」で読替え
	異文化理解A		2	
	異文化理解B		2	廃止
	[国際協力論]		2	廃止
	農業問題入門		2	廃止
	[国際環境マネジメントⅠ]		2	名称変更「アジア・フィールド実習Ⅰ」
	[国際環境マネジメントⅡ]		2	名称変更「アジア・フィールド実習Ⅱ」
	憲法	180	2	
	History of Japanese Cinema		2	廃止
	Patterns in Japanese Culture & Society		2	廃止
	[Model United States of America]	50	2	名称変更「World Societies Ⅰ」で読替え
	[Model United Nations]	50	2	名称変更「World Societies Ⅱ」で読替え
	[キャリアデザイン]<キャリア教育推奨>		2	名称変更「キャリア形成への道B」で読替え
	しぜん (Natural Sciences)	[自然保護論]		2
[材料史]			2	名称変更「暮らしの中の材料」で読替え
[自然科学の視点]			2	名称変更「自然科学入門」で読替え
[自然現象のしくみ]			2	名称変更「自然のしくみB」で読替え
わざ (Technology)	[こころのテクノロジー]		2	名称変更「人間関係の科学B」で読替え
	人間と病気		2	
	持続的農業論		2	廃止
	[比較都市論]		2	名称変更「都市・建築をつくる」で読替え
	機械の再発見		2	
	電子社会と人間		2	
	比較住居論	100	2	生活デザ、人間関係は専門科目扱い
	生活と健康		2	
	[植物の病気]		2	名称変更「農業と環境B」で読替え
	[川の未来学]		2	名称変更「都市・建築を考える」で読替え
追加科目	[キャリアデザイン特講](キャリア教育関連)	50	2	廃止
	[農業と環境]		2	名称変更「農業と環境A」で読替え
	[Introduction to Japanese Culture and Society]	50	2	名称変更「Japan Studies VII」で読替え
	[Introduction to Japanese Law]	50	2	名称変更「Japan Studies VI」で読替え
	食と健康	90	2	追加 栄養は自由科目
	名著から学ぶ環境問題		2	追加
	生活の中にもみる力学	50	2	追加 工学部は自由科目
	コンピュータとインターネット		2	追加 工学部は自由科目
	地域と文化		2	追加
	人間関係の科学A		2	追加
	機械の役割と仕組み		2	追加 工学部は自由科目
	技術の歴史		2	追加 工学部は自由科目
	電子システムの最先端		2	追加 工学部は自由科目
	国際文化概論		2	国際コミュニケーション学科は「比較宗教論」(学科専門科目)に読替え 「比較宗教論」既修得者は履修不可
	ジェンダー平等をつくる	200	2	追加

■地域基礎科目

クラスター	科目	定員	単位	備考
必修	地域共生論		2	
選択必修	地域コミュニケーション論	60	2	
	[近江の歴史と文化]		2	名称変更「歴史と文化」で読替え
	地域社会福祉論	120	2	看護は必修
	地域づくり人材論		2	
	びわこ環境行政論		2	
	多文化共生論		2	奇数年度開講
	地域産業・企業から学ぶ社長講義	150	2	
	近江の暮らしとなりわい	100	2	名称変更「SDGsと滋賀のグローバル・イノベーション」
	近江の美	100	2	偶数年度開講
	世界遺産のまちづくり・人づくり	40	2	追加令和7年度から廃止

(2) 学部学科科目の履修について

卒業要件単位数は入学年度の履修の手引で確認してください。

① 読替えについて

入学年度により、下記に示した新科目名は、旧科目名に読み替えます。ただし、旧科目名で単位を修得した科目については、新科目名で新たに単位を修得することはできません。

■環境生態学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
2018(平成30)年度以前 入学生	水域環境影響調査指針	環境微生物学	
	陸域環境影響調査指針	理論生態学	
	環境生態学外書講読	科学英語Ⅰ	
	環境生態学外書表現	科学英語Ⅱ	
	環境論考解析学	科学作文	令和9年度から廃止
	環境変遷史	環境変遷学	
	集水域環境影響調査指針	環境リスク解析法	
2019(令和元)年度以前 入学生	環境地球科学Ⅰ	地球科学Ⅰ	
	環境地球科学Ⅱ	地球科学Ⅱ	
	環境地球科学実験(コンピュータ活用含む)	地球科学実験	
	集水域物質循環論	地球環境化学	
	水域物質循環論	微生物機能論	
	水域環境機能論	環境毒性学	
	陸域環境機能論	環境疫学	
	集水域環境機能論	環境汚染システム論	
2023(令和5)年度以前 入学生	科学作文	廃止	令和9年度から廃止
	環境生物学実験(コンピュータ活用を含む)	環境生物学実験	
	環境物理学実験(コンピュータ活用を含む)	環境物理学実験	
	環境化学実験(コンピュータ活用を含む)	環境化学実験	
	地球科学実験(コンピュータ活用を含む)	地球科学実験	

■環境政策・計画学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
2017(平成29)年度以前 入学生	環境経営論	環境経営学	
2019(令和元)年度以前 入学生	環境地球科学Ⅰ	地球科学Ⅰ	
2022(令和4)年度以前 入学生	国際環境資源論	廃止	令和7年度から廃止
2023(令和5)年度以前 入学生	応用数学	応用数学Ⅰ	
	-	応用数学Ⅱ	卒業要件に含めることができる

■環境建築デザイン学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
2018(平成30)年度以前 入学生	環境技術	廃止	
	-	設計演習IV	卒業要件に含めることができる

■生物資源管理学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
2017(平成29)年度以前 入学生	食料経済システム論	廃止	
2018(平成30)年度以前 入学生	水域環境影響調査指針	環境微生物学	
	陸域環境影響調査指針	理論生態学	
2019(令和元)年度以前 入学生	集水域物質循環論	地球環境化学	
	集水域環境機能論	環境汚染システム論	
	持続的農業論	廃止	
	環境地球科学 I	地球科学 I	
	環境地球科学実験(コンピュータ活用を含む)	地球科学実験	
	陸域環境機能論	環境疫学	
2022(令和4)年度以前 入学生	国際環境資源論	廃止	令和7年度から廃止
2023(令和5)年度以前 入学生	環境生物学実験(コンピュータ活用を含む)	環境生物学実験	
	環境物理学実験(コンピュータ活用を含む)	環境物理学実験	
	環境化学実験(コンピュータ活用を含む)	環境化学実験	
	地球科学実験(コンピュータ活用を含む)	地球科学実験	

■材料化学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
2018(平成30)年度以前 入学生	産業技術マネジメント	廃止	
2023(令和5)年度以前 入学生	物理学実験(コンピュータ活用を含む)	物理学実験	
	分析・環境化学実験(コンピュータ活用を含む)	分析・環境化学実験	
	定量・機器分析および同実験(コンピュータ活用を含む)	定量・機器分析および同実験	

■機械システム工学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
2018(平成30)年度以前 入学生	産業技術マネジメント	廃止	
2023(令和5)年度以前 入学生	物理学実験(コンピュータ活用を含む)	物理学実験	

■電子システム工学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
2018(平成30)年度以前 入学生	産業技術マネジメント	廃止	
2023(令和5)年度以前 入学生	物理学実験(コンピュータ活用を含む)	物理学実験	

■地域文化学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
2017(平成29)年度以前 入学生	現代社会論	国際社会論	
	組織とネットワークの社会学	廃止	
2018(平成30)年度以前 入学生	東アジア考古学概論	世界遺産学概論	
	比較文明論	世界遺産学特論	
	—	地域計画概論	卒業要件に含めることができる
	—	地域計画実習	卒業要件に含めることができる
	地域文化演習Ⅲ	地域文化演習Ⅲ 地域文化演習Ⅳ	
2019(令和元)年度以前 入学生	卒業研究・論文	卒業研究・論文Ⅰ 卒業研究・論文Ⅱ	
	—	中世近江論	卒業要件に含めることができる
2020(令和2)年度以前 入学生	文化人類学概論A	文化人類学概論	
	文化人類学概論B	廃止	

■生活デザイン学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
2019(令和元)年度以前 入学生	—	視覚伝達デザイン	選択科目として卒業要件に含めることができる
2021(令和3)年度以前 入学生	—	デザイン思考	選択科目として卒業要件に含めることができる
	—	タイポグラフィ	選択科目として卒業要件に含めることができる
	生活造形基礎演習	生活デザイン基礎演習	
	生活経営論	廃止	
	消費生活論	廃止	
	保育学	こどもの健康(家庭看護を含む) こどもの発達(実習を含む)	両方の単位を取得することで、保育学の単位となる
2022(令和4)年度以前 入学生	サステナブルデザイン論	ソーシャルデザイン論	
	マーケティング演習	廃止	
2023(令和5)年度入学生	—	テキスタイルデザイン	選択科目として卒業要件に含めることができる
2023(令和5)年度以前 入学生	インテリア計画論	廃止	令和7年度から廃止
	生活工学	廃止	
	サービス・システムデザイン論	廃止	
	こどもの健康	こどもの健康(家庭看護を含む)	
	こどもの発達	こどもの発達(実習を含む)	
	—	プロダクト素材論	選択科目として卒業要件に含めることができる

■生活栄養学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
2021(令和3)年度以前 入学生	生活経営論	廃止	
	消費生活論	廃止	

■人間関係学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
2017(平成29)年度以前 入学生	現代社会論	国際社会論	
	-	地域社会論	卒業要件に含めることができる
	発達心理学Ⅰ	発達心理学	
	-	家族論	卒業要件に含めることができる
	発達心理学Ⅱ	廃止	
	カウンセリング論演習	カウンセリング論	
	-	パーソナリティ心理学	卒業要件に含めることができる
	地域運動論	社会運動論	
	社会・経済政策論	労働・社会政策論	
2018(平成30)年度以前 入学生	人間関係論演習Ⅱ	人間関係論演習Ⅱ 人間関係論演習Ⅲ	
	卒業研究・論文	卒業研究・論文Ⅰ 卒業研究・論文Ⅱ	
2021(令和3)年度以前 入学生	生活経営論	廃止	
	消費生活論	廃止	
2022(令和4)年度以前 入学生	家族論	家族の心理と社会	
2023(令和5)年度以前 入学生	高齢者行動論	廃止	令和7年度から廃止

■国際コミュニケーション学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
2020(令和2)年度以前 入学生	-	国際文化論	卒業要件に含めることができる
	文化人類学概論A	文化人類学概論	
	文化人類学概論B	廃止	
	モンゴル語ⅠA	廃止	
	モンゴル語ⅠB	廃止	
	モンゴル語ⅡA	廃止	
	モンゴル語ⅡB	廃止	

■人間看護学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
2022(令和4)年以前 入学生	看護英語実践	看護英語実践	開講時期変更(後期→通年)
	栄養学	栄養学	単位数変更(2単位→1単位) 不足分を特別開講
	疾病論Ⅲ	疾病論Ⅲ	単位数変更(1単位→2単位)
	成人クロニックケア演習	健康危機回復支援演習Ⅰ	名称変更
	成人クリティカルケア演習	健康危機回復支援演習Ⅱ	名称変更
	エンドオブライフケア演習	緩和ケア演習	名称変更
	老年看護学演習	在宅療養移行支援演習	名称変更
	成人クリティカルケア実習	健康危機回復支援実習	科目統合(名称変更)
	成人クロニックケア実習		
	エンドオブライフケア実習	緩和ケア実習	名称変更
	老年看護学実習Ⅰ	地域(療養)生活実習Ⅱ	名称変更
	老年看護学実習Ⅱ	在宅療養移行支援実習	名称変更
	精神看護学概論	精神看護学概論	年次変更(2回生→1回生)の ため、旧カリ科目を特別開講
	在宅看護学概論	在宅看護学概論	単位数変更(1単位→2単位)
	在宅看護学演習	在宅看護学演習Ⅰ	科目分割・単位数増加 (新科目2科目を受講)
		在宅看護学演習Ⅱ	
	人間看護学統合実習	人間看護学統合実習Ⅰ	科目分割 (新科目2科目を受講)
人間看護学統合実習Ⅱ			

※上記に示す旧科目(旧単位数)の単位修得の際には、旧科目を履修登録の上、新科目名の授業に参加してください(特別開講除く)。各旧科目の単位修得に関する質問・問い合わせは、新科目名の授業担当者に問い合わせてください。

■教職関係

対象	旧科目名	新科目名	備考
2017(平成29)年度以前 入学生	保育学A	こどもの健康(家庭看護を含む) こどもの発達(実習を含む)	中高・家庭(デザ)
	保育学B	こどもの健康(家庭看護を含む) こどもの発達(実習を含む)	中高・家庭(栄養)
	家庭電気・機械	生活工学	高校・家庭(デザ・栄養)
2018(平成30)年度以前 入学生	教育相談・進路指導	教育相談 進路指導	卒業要件外 //
	-	特別支援教育概論	//
	-	総合的な学習の時間の指導法	//
2019(令和元)年度以前 入学生	環境地球科学 I	地球科学 I	中高・理科(生態・資源) 高校・理科(材料・機械)
	環境地球科学 II	地球科学 II	中高・理科(生態・資源) 高校・理科(材料・機械)
	環境地球科学実験(コンピュータ活用含む)	地球科学実験	中高・理科(生態・資源)
	集水域物質循環論	地球環境化学	中高・理科(生態)
	水域物質循環論	微生物機能論	中高・理科(生態)
	水域環境機能論	環境毒性学	中高・理科(生態)
	陸域環境機能論	環境疫学	中高・理科(生態・資源)
	集水域環境機能論	環境汚染システム論	中高・理科(生態・資源)
	持続的農業論	廃止	高校・農業(資源)
2021(令和3)年度以前 入学生	生活経営論	廃止	中高・家庭(デザ)
	消費生活論	廃止	中高・家庭(デザ)
	保育学(実習及び家庭看護を含む)	こどもの健康(家庭看護を含む) こどもの発達(実習を含む)	両方の単位を取得することで、保育学の単位となる 中高・家庭(デザ)
2023(令和5)年度以前 入学生	環境生物学実験(コンピュータ活用を含む)	環境生物学実験	中高・理科(生態・資源)
	環境物理学実験(コンピュータ活用を含む)	環境物理学実験	中高・理科(生態・資源)
	環境化学実験(コンピュータ活用を含む)	環境化学実験	中高・理科(生態・資源)
	地球科学実験(コンピュータ活用を含む)	地球科学実験	中高・理科(生態・資源)
	物理学実験(コンピュータ活用を含む)	物理学実験	高校・理科(材料・機械)
	分析・環境化学実験(コンピュータ活用を含む)	分析・環境化学実験	高校・理科(材料)
	定量・機器分析および同実験(コンピュータ活用を含む)	定量・機器分析および同実験	高校・理科(材料)
	情報と職業	令和8年度から廃止	高校・情報(電子)
	インテリア計画論	令和7年度から廃止	中高・家庭(デザ)
	生活工学(情報処理を含む)	廃止	高校・家庭(デザ)
	高齢者行動論	令和7年度から廃止	高校・公民(人関)

(3) 近江楽士（地域学）副専攻関連科目の履修について

近江楽士（地域学）副専攻とは、1年次に学習した地域基礎科目の履修を通して修得した基礎的な知識・能力を向上させて、「コミュニケーション力」「構想力」「実践力」からなる「変革力」を身につけるために、主専攻（各学科）に所属しながら履修することができる全学共通の副専攻課程です。この副専攻の修了要件を満たした学生には、主専攻の修了時に、卒業証書・学位記と合わせて「近江楽士」の称号を授与します。

近江楽士（地域学）副専攻は、地域を客観的に分析し、人材や地域資源を結び合わせて地域再生の取組をデザインする「コミュニティ・ネットワーカー」と、ソーシャル・ビジネスの発想と手法により地域課題を解決する「ソーシャル・アントレプレナー」を養成する二つのコースがあります。

近江楽士（地域学）副専攻の各コース履修を希望する学生は、履修届を提出してください。

なお、コミュニティ・ネットワーカーコースおよびソーシャル・アントレプレナーコースの両方の履修を希望する場合は、それぞれの要件を満たすことが必要となります。そのため、地域デザインA, B, C, Dの履修においては少なくとも2科目の履修が求められることに注意してください。

I 近江楽士（コミュニティ・ネットワーカー）について

近江楽士（地域学）副専攻を修了し、近江楽士（コミュニティ・ネットワーカー）の称号を授与されるためには、下表の関連科目から、次に示した修了要件を満たすよう単位を取得する必要があります。

■2022（令和4）年度以前入学生用

ア 副専攻修了要件

必修科目	: 3科目6単位
<u>選択必修科目から</u>	: 1科目2単位以上
計	: 4科目8単位以上

イ 副専攻科目配当表

① 必修科目：3科目6単位

科目名	配当年次	単位数	備考
地域診断法	1・後	2	
システム思考法	2・前	2	
問題解決デザイン論	2・後	2	

② 選択必修科目：1科目2単位以上

科目名	配当年次	単位数	備考
地域デザインA(注1)	2,3,4・前	2	コミュニティ・ネットワーカーコースは地域デザインAまたはB、 ソーシャル・アントレプレナーコースは地域デザインCまたはD の選択科目を履修することを推奨します。
地域デザインB	2,3,4・前	2	
地域デザインC	2,3,4・後	2	
地域デザインD	2,3,4・前	2	

(注1) 環境政策・計画学科、環境建築デザイン学科は「地域再生システム論」に読替え、専門科目として扱う。

II 近江楽士（ソーシャル・アントレプレナー）について

近江楽士（地域学）副専攻を修了し、近江楽士（ソーシャル・アントレプレナー）の称号を授与されるためには、下表の関連科目から、次に示した修了要件を満たすよう単位を取得する必要があります。

■2022（令和4）年度以前入学生用

ア 副専攻修了要件

必修科目 : 3科目6単位
選択必修科目から : 1科目2単位以上
 計 : 4科目8単位以上

イ 副専攻科目配当表

① 必修科目：3科目6単位

科目名	配当年次	単位数	備考
ソーシャル・ビジネス概論	1・後	2	「コミュニティとライフデザイン(2020(令和2)入学以前)」、「地域社会とキャリア創生(2018(平成 30)入学以前)」、「地域社会と女性キャリア創生(2016(平成 28)入学以前)」で読替
MBA入門	2・前	2	「経営学序論(2018(平成 30)入学以前)」で読替
ビジネス・プランニング	2・後	2	「地域企業講座(2020(令和 2)入学以前)」、「地域中小企業講座(2018(平成 30)入学以前)」で読替

② 選択必修科目：1科目2単位以上

科目名	配当年次	単位数	備考
地域デザインA	2,3,4・前	2	コミュニティ・ネットワークカーコースは地域デザインAまたはB、 ソーシャル・アントレプレナーコースは地域デザインCまたはD の選択科目を履修することを推奨します。
地域デザインB	2,3,4・前	2	
地域デザインC	2,3,4・後	2	
地域デザインD	2,3,4・前	2	